



H24.2.1 発行

NBN Niigata Bousai Network

NPO 法人日本防災士会・新潟県支部会報 第5号

新潟防災ネットワーク

NPO 日本防災士会・新潟県支部の動向

NPO 法人日本防災士会・新潟県支部 支部長 別府 茂



東日本大震災の被害の大きさを目の当たりにして、改めて減災対策の大切さが問われています。国も地方も災害と被害想定の見直しを進め、さらに防災力の強化のため防災士会の役割も重要性を増しています。このような中、今年は佐渡地区の防災士 27 名に新潟県支部に入会いただきました。また、妙高市では市の施策として防災士育成を進め、今秋 40 名の防災士が誕生しています。各地区活動については、地区ごとに様々な段階があるものの、十日町市地区、新潟市地区では自主防災組織との連携が着実に成果を出しています。

今後は、会員のスキルアップとして、各地で開催希望の多いDIG講習をテーマに3月から「DIGの指導者育成研修会」をスタートさせます。また、この研修会では新潟県支部だけでなく県内の他の防災組織との共催など連携も強める計画です。

会員の皆様には、是非「DIGの指導者育成研修会」を受講し、地域の防災訓練などでの指導にお役立て下さいますようお願いいたします。

NPO 法人日本防災士会・新潟県支部 会員募集

NPO 法人日本防災士会・新潟県支部では、会員を募集しています。あなたの地域で防災士を取得されている方で、さらなるスキルUPを希望されていたり、新潟県内や全国の様々な情報を欲している方はいませんか？ 現在、県支部会員(5月末日現在)は、新潟地区17人 上越地区8人 中越地区36人 下越地区3人 佐渡地区31人 合計95人になっています。新潟県自主防災コーディネーター登録者数は4月1日現在151名ということです

NPO 法人日本防災士会・新潟県支部では、防災活動に関する様々なニーズにお応えできる研修会や情報提供を行っております。入会を希望される方は、下記事務局までご連絡ください。

※NPO 法人日本防災士会・新潟県支部事務局

〒948-0003 新潟県十日町市本町 6-3 TEL : 025-752-7353 FAX : 025-750-3670

NPO セーフティネットぼうさい内 担当: 尾身誠司 (E-mail: tbk119@jeans.ocn.ne.jp)



新潟県支部の活動

★ 妙高地域における防災力向上シンポジウム ★ ～つなげよう人とひとの絆 備えよう OMOIYARI の心～

上越地区 小川 克昌（妙高市）

平成23年9月11日（日）に社団法人新井青年会議所の主催により、妙高地域における防災力向上シンポジウムが開催された（共催：妙高市）。本事業は妙高地域における防災力の向上を目的に、旧山古志村の村長だった長島忠美衆議院議員らによるパネルディスカッションと妙高市内外の防災に係わる各種団体における防災体験ブースの展示を行なった。当日は、シンポジウムに約700名の市民らが来場し、防災に関する知見を深めた。

日本防災士会新潟県支部でもブース出展を行い、防災士会の取り組みを紹介するとともに、妙高市防災士会の方々や様々な防災に関する団体と交流を行った。

パネルディスカッションでは中越大震災を経験し、今現在も東日本大震災被災地において活動を続ける様々な団体のリーダーが防災に対する心構えや我々市民が普段どのような準備をしなければならないか話し合った。防災体験ブースでは、福島第一原子力発電所の事故直後に上空からの撮影に成功したエアフォートサービス社の自律航行が可能なラジコン飛行機の展示や自衛隊・国土交通省・警察・消防などの行政からの展示、防災科学研究所や雪崩・地すべりセンターなどの研究機関の展示、日本赤十字による炊き出し訓練などシンポジウムを盛り上げた。

本シンポジウムは昨年秋より計画を初め、東日本大震災の発生により実施の可否についても深く議論がなされ、妙高市役所の全面的支援により開催することが出来た。今後も継続してこのような防災に関する催しが実施されることを望む。



*****事業開催のご案内*****

NPO法人日本防災士会・新潟県支部主催の研修会を計画いたしました。内容は「DIG指導員研修」となります（詳細案内は別途）。

- ・ 実施日：平成24年3月24日（土）
- ・ 時間：受付開始10時（終了予定16時）
- ・ 場所：長岡市民防災センター

会員防災士の活動



★新潟市東区山木戸地区自主防災訓練の実施★

新潟地区 高橋 芳夫（新潟市）

去る10/23(日)、私の住んでいる新潟市東区山木戸地区(新潟駅より阿賀野川方面へ車で15分。近隣商業地域、工業専用地域それに第一種住居専用地域などが混在した地域)で、自主防災訓練を実施した。

あいにくの悪天候にもかかわらず、会場となった東新潟中学校体育館に集まった186人の参加者は、例年どおり消防団指導による心肺蘇生などの実技体験からはじまった。

その後西潟副支部長から「東日本大震災」の講話、伊原防災士から「DIG」を活用し地域を知り、地域の防災を考える「防災講話」が行われ今までにない防災訓練となり注目を集めた。このように旧態依然とした防災訓練から地域に密着した防災訓練が行われることが望まれます。



★妙高市防災士会研修会に参加してきました★

上越地区 小川 克昌（妙高市）

去る11月26日(土)、妙高市防災士会の研修会に参加しました。本研修会は、10月23日にオープンしたばかりの長岡震災アーカイブセンターきおくみらいと妙見メモリアルパーク、木籠メモリアルパーク長岡市防災センターを視察し、長岡市安全士会の皆様と交流するものでした。

長岡震災アーカイブセンターきおくみらいでは、最新のアイパッドを用い、被災地の航空写真に書かれたバーコードを読み込むことにより当時の状況や様々な記録を読み取る機械を体験しました。木籠メモリアルパークでは、地震により発生した天然ダムに埋没した集落を見学し、区長のお話を聞くことにより当時の想いや被災地の記録を残すことの重要性を学びました。

長岡市安全士会の生い立ちや今までの活動経緯を聞くことにより、今後妙高市防災士会がどのような活動を展開していかなければならないか非常に参考になる有意義な研修会でありました。今後、妙高市防災士会も新潟県支部の皆様と交流を重ね、地域の防砂力向上に貢献することを誓う一日でした。



会員からの声

平成 23 年新潟・福島豪雨の教訓

中越地区 尾身 誠司（十日町市）

1月の豪雪、3月12日の県境地震相次ぐ自然災害にほとほとまっていた十日町市に記録的集中豪雨が襲った。7月28日未明から降り始め午前中に時間雨量20ミリを超える雨が3時間ほど続いた。午後は小康状態になりこれでやんだと思えたがアメダスの雲の映像を見ると夕方から7時頃まで続きそうだった。5時過ぎから雨脚が激しくなり6時から7時までの時間雨量58ミリを記録した。

その日は十日町市のリーダー研修会も終わりピアガーデンで一息入れることになっていた。ドームの中で話声がかき消され何も聞こえないほどである。予報通り7時に雨はやんだ。それから雨は降らなく、これで遅い梅雨明けの雨と皆安心をしていた。24時間後の29日夜7時頃からまたも雨脚が激しくなってきた。そしてあの記録的集中豪雨が9時から始まり72時間総雨量は565ミリ。今までに経験したことのない土石流災害を受けた。被害状況は以下の写真のとおりである。

今回の集中豪雨被害を私は一般市民の目から次のように分析する。

1. 100ミリを超える大雨に対して無知であり何の備えもしていなかった。
2. 十日町市の災害情報メールは機能しなかった。28日に大雨洪水警報が1回出されたきりで、更新がなかったためかその後の情報はなかった。
3. 避難勧告、避難指示の時期、伝達は適正だったか。一旦小康状態になり油断がなかったか。
4. 土砂災害マップがまさにそのとおりだった。しかし、それがまったく活かされていない。即ち誰もが検討はしていない。
5. 山の手入れがされていないため倒木などによる被害拡大が懸念されていた。今後益々注意が必要になる。
6. 自主防災組織の体制に水害、土石流災害を検討する必要がある。

その中で地震とは違う避難のむずかしさが浮き彫りになった。避難中の3名が流され老人が不明となっている。走行中の車ごと川に流され男性が死亡した。避難行動の在り方を考えなければならない。



編集後記

平成24年1月17日で、阪神・淡路大震災より17年の月日が経ちました。今年は東日本大震災の被災者ともに、亡くなられた方々のご冥福をお祈りしました。年末からの豪雪により、新潟県内では除雪作業等の事故により多くの方が亡くなられました。四季がはっきりしている日本は、自然災害が多く発生するというのを改めて認識させられます。(か)